

各団体の活動にあたっての 課題等の意見交換

いわき市地域共生社会推進会議委員が所属する
各団体の活動に関するアンケート調査

1 アンケート調査の概要	1
2 行政や他団体等との連携事例	2
3 地域活動を始めるときの課題	6
4 地域活動を継続させるために重要なこと	10
5 地域課題を解決するために必要な支援や取組み	14
6 地域づくりに役立つアイデア	18

1 アンケート調査の概要

目的

地域共生社会の推進に向け、具体的な取組・支援等を検討していく上で、各委員が所属する団体の活動にあたっての課題やアイデア等を把握するため、会議開催前にアンケート調査を実施。

調査項目

- ① 行政や他団体等と連携をとっている事例があれば、その状況について教えてください。
- ② 地域活動を始めるときの課題は何ですか(何だと思いますか)。
- ③ 地域活動を継続させるために重要だと思うことは何ですか(何だと思いますか)。
- ④ 課題を解決するために必要だと思う支援や取組みは何ですか(何だと思いますか)。
- ⑤ 現在行っている活動以外で、地域づくりに役立つと思うアイデアがあれば教えてください。

調査結果

- ・ 11/17(月)までにご回答いただいた主な回答内容を掲載
- ・ 次回以降の会議で意見交換のテーマ等として活用予定

2 行政や他団体等との連携事例(ポイント)

- 専門分野の場合は、その分野に関連した関係団体との連携が多い
- 福祉分野は、より地域に近い関係者との連携が多い
- 広報・情報発信分野は様々な関係団体と広く連携
- 学生などの若い世代を切り口とした連携も見られる
- 行政機関との連携(補助事業、業務委託、防災、教育、調整等)も多い

2 行政や他団体等との連携事例

1/3

- 若者サポートステーションと東日本国際大学の基礎演習(ゼミ)1年生及び2年生が、サポステの役割について学び、事業などを体験。《山本委員》
- 「障がい福祉フェス」でいわき市から後援を受け小中学校にチラシ配布。通所施設で障がい者が作るパン・お菓子を市内企業で販売できるよう行政と連携。《長谷川秀雄委員》
- SNSを活用した情報発信の分野で、行政や他団体と連携。地域の魅力発信や企業・団体の活動を広く伝え、まち全体の活性化と雇用促進につなげる。《小嶋委員》
- 市医療対策課が主催している県立医大の医学生を対象とした地域医療セミナーにて、毎年かしま病院+いとちプロジェクトで地域医療を学ぶプログラムを提供。《江坂委員》
- いわき市地域自立支援協議会、高等学校と支援機関による就労支援定期連絡会、いわき市障がい者職親会。《須藤委員》
- デイサービスに通う高齢者が働くカフェ(おにぎらず)を運営。市役所の正面玄関で販売。《長谷川正江委員》

2 行政や他団体等との連携事例

2/3

- 行政(いわき市、福島県):補助事業、協働による事業運営、事業委託、事業参加協力等。
他団体(社協、包括等):事業助成、事業参加協力、情報交換等。《藤舘委員》
- 防災を中心に市・警察・消防と連携し、危険が及ぶ恐れのある事象や行方不明者の発見等の呼びかけ。《岩本委員》
- 地区保健福祉センター・地域包括支援センター・社会福祉協議会等と連携して、様々な事情により住宅確保が困難な方に対し、居住支援法人である当法人住宅で受け入れ。《田子委員》
- いわき市の障害者自発的活動支援事業補助金、まち・未来創造支援事業補助金を活用。障がい者アート作品を企業にレンタルし企業の応接室や玄関に展示。アートを通した障がい者交流イベントを開催(県・アリオスから運営委託)。様々な公共の場で作品展を行う。《西山委員》
- 社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携。《篠原委員》
- NPO法人福島県就労支援事業者機構、更生保護女性会、BBS会との連携。《渡邊委員》

- 地域包括支援センター、各病院の相談室、老人ホーム等との連携(身元引き受け業務)。<<石原委員>>
- 自治会、事業者、民生委員、行政等との連携(買い物支援)。<<園部委員>>
- 生活・就労支援センター、共生の杜青山との連携(生活困窮/食事・住まい)。SSW・家庭相談員・児童相談所等との連携(ヤングケアラー/DV)。他にも基幹相談支援センター・障がい者相談支援センターなど様々な機関と連携。<<神永委員>>
- 市教育委員会(フリースクール)、内郷婦人会(子ども食堂)、JICA東北(インターナショナルデー)、Cotohana・こみゅーん等(双葉郡の外国人支援)<<ダナンジ委員>>
- 市民生児童委員協議会、市行政嘱託員(区長)連絡協議会、市老人クラブ連合会、市ボランティア連絡協議会、いわき青年会議所、災害支援ネットワークいわき等<<荒川委員>>

3 地域活動を始めるときの課題(ポイント)

- 地域住民への働きかけ・理解、お互いを知ることなどが重要
- 関心を持ってもらえる「入り口」を提供し活動を「見える化」すること
- 関係者同士の連携・理解(分野・組織を超えた連携、目標の共有など)
- 自分ごと化できるか
- 地域活動をする本人が幸せになっていること
- 地域の現状の把握
- 活動拠点・活動資金・財源の確保(財政支援、行政の適切な関与)
- 広報・周知

3 地域活動を始めるときの課題

1/3

- お互いがお互いを知ること。迷惑にならないようにできることが何かを探ることなどが課題。《山本委員》
- 福祉介護事業所は利用者へのサービス提供に追われ、地域に目が向かない傾向。地域共生に向けて地域住民への働きかけが重要だが、その一翼を担うべき福祉の担い手の「内向き」な意識が最大の課題。《長谷川秀雄委員》
- 課題は「入口作り」にある。参加したくても、どこから始めていいのかわからず、情報が届きにくいことが大きな壁。活動への導線を作り、関心を持ってもらえる「入り口」を提供することで地域活動への参加が促進される。また、活動を「見える化」し、想いを伝え、人と人をゆるやかにつなぐことで、地域が自然と動き出す環境を作りたい。《小嶋委員》
- 協力者と活動予算の確保。《江坂委員》
- 自分にできることが不明確である場合、参加しにくいハードルがある場合、関係者間の連携不足(意思決定のスピード・考え方の違い等)。《須藤委員》
- 地域の皆さんに理解してもらうこと。《長谷川正江委員》
- 「何のために」「何を目指す」活動なのか整理し地域と共有することが必要《藤舘委員》

3 地域活動を始めるときの課題

2/3

- 福祉・医療・教育等の分野や、行政・NPO・民間団体等の枠を超え、他団体と共感できる体制をつくる(交流を重ね、相手の組織で働く等の実体験を通して理解)。《岩本委員》
- 地域で発生している様々な問題の共有・理解が希薄なこと。《田子委員》
- 「人・物・資金・場所」、「まずはやる勇氣」、「活動の目的に近づけた(対象者が笑顔・幸せになる)時に自分自身の心が純粹に幸せになっているか」。《西山委員》
- 地域住民の協力不足、住民の高齢化、集落の人口減少《篠原委員》
- 更生を促すための活動には、地域活動の理解、事業主の理解が最優先《渡邊委員》
- 地域の現状をしっかりと把握すること(必要としていること、できること、どうしていききたいのか、どうなりたいのか)《石原委員》
- ニーズ把握、地域の実情に応じた実施体制づくり《園部委員》
- どこまで自分事として考えられるか。体力的な問題、地域活動への関心の薄さ、時間・余裕がないなどの課題がある。《神永委員》
- ネットワークづくり(信頼関係を築くこと)《ダナンジ委員》

3 地域活動を始めるときの課題

3/3

- 活動できる人を見つけること、財政支援、地域住民の理解、活動拠点の確保、周知(PR)。
《荒川委員》

4 地域活動を継続させるために重要なこと(ポイント)

- 「地域の問題は、みんなで取り組む」という意識の醸成
- 無理なく・楽しく、共感・共有でつながる仕組み(コミュニケーション)
- 人材確保・育成、後継人材・若手人材の確保、若い世代との連携
- 活動資金・財源の確保(財政支援、行政の適切な関与)
- 組織化・ネットワークづくり(関わる人の強み・弱みを把握)
- 地域活動をする本人が幸せ(楽しさ)を感じることに
- ブレない目標と手段を変える柔軟性
- 広報周知・情報発信・イベント企画
- DXの活用

4 地域活動を継続させるために重要なこと

1/3

- 無理せず、できる範囲で実施していくこと。《山本委員》
- 寄付文化が欧米に比べ非常に弱い。「地域の問題は、みんなで取り組む」という意識の醸成が必要。《長谷川委員》
- 「無理なく、楽しく、共感でつながる仕組み」をつくること。日常の中で持続性を持って無理なく関われる形を整え、活動の様子や想いを積極的に発信し、共感の輪を広げることで新たな参加者や応援が生まれる。情報発信を通じて「地域の人が自然と集まりたくなる空気」を育み、活動が長く続いていく土壌をつくっていくことが重要。《小嶋委員》
- 協力者と活動予算の確保《江坂委員》
- 人材確保・育成、地域課題の明確化、活動資金《須藤委員》
- 地域の皆さんに理解してもらうこと。《長谷川正江委員》
- プレーヤーの内発的動機づけ、組織化・ネットワークづくり、後継人材の育成、行政の適切な関与。《藤舘委員》
- 若い世代を取り込むこと。DXを活用し、時間や期間にしばられず物理的に近い場所で活動できる体制が必要。金銭面の負担を減らすため行政支援も必要。《岩本委員》

4 地域活動を継続させるために重要なこと

2/3

- 生活に余力を持つ人材、地域問題に取り組む意思のある人材確保が重要。資金面では、個人の集合体では十分でないので、公的補助のほか地域企業等との連携(共助)も肝心。《田子委員》
- 小さなことでも対象者が笑顔になった時に自身も純粹に幸せになっているか常に確認する。何のためにやるか目標がぶれない意思と手段を変える柔軟性や、自身と関わる人のそれぞれの強みと弱みの把握が必要。《西山委員》
- 地域の行政嘱託員の協力が必要。《篠原委員》
- 思い、考え、型を共有すること。繰り返すこと。自分自身のこととして捉えること。《石原委員》
- リーダーの育成、財源の確保、サポーターの確保。《園部委員》
- 住民へ情報発信・イベントの企画。活動するスタッフ自身が楽しむこと。《神永委員》
- 人材確保・指導者の育成。活動の目的等。住民同士のコミュニケーション《古川委員》
- 連携し続けること(横のつながり)《ダナンジ委員》

4 地域活動を継続させるために重要なこと

3/3

- 人材育成、後継人材・若手人材の確保、財政支援(継続費用)、市民への周知・理解、区長・民生委員等への過度な業務依頼を控える等《荒川委員》

5 地域課題を解決するために必要な支援や取組み(ポイント)

- 情報発信・広報(メディアやSNSで親しみやすい形で積極的に)
- 活動団体の相談窓口
- 関係者間の体制づくりと助け合う関係性づくり(連携)
- 地域資源を活かした持続可能な取組み
- 関わる方が自分ごととして関わる(目的の共有・役割分担等が重要)
- アプリを活用し若い世代が負担なく活動できる体制づくり
- 地域ニーズと施策のマッチングを検証(情報収集)
- 市民だけでなく企業を巻き込んだダイナミックな連携・取り組み
- モデル事業の実施
- 活動拠点・活動資金・財源の確保(財政支援、行政の適切な関与)

5 地域課題を解決するために必要な支援や取組み

1/3

- 広報(広く知られていない)。《山本委員》
- 市民活動団体等の活動を行政が財政を含めて支援し、住民にじっくりと働きかけてもらえるような「間接支援」が必要。《長谷川委員》
- 「つながりを生む支援」と「発信力の強化」が必要。地域の団体や個人がゆるやかにつながり、情報や想いを共有できる場づくりが鍵。活動の価値を効果的に伝える広報力を育てることで、共感や協力が生まれやすくなる。行政は十分な予算を確保し、関わるすべての方が気持ちよく取り組める持続可能な財政環境の整備が求められる。《小嶋委員》
- 活動団体が抱える悩み等を総合的に相談(できれば解決まで)できる窓口と、活動を地域の人に認知してもらえるような広範囲の広報活動《江坂委員》
- 関係者間の体制づくりと助け合う関係性を築き、地域資源を活かした持続可能な取組み。《須藤委員》
- 地域企業からの依頼などがあることでやりがいにつながる。《長谷川正江委員》

- 法人化する際の手続き支援、補助事業の活用、他団体との交流機会、人材確保、広報。
《藤舘委員》
- 他団体の活動を体験できる研修機会を行政支援で実現。アプリを活用し若い世代が負担なく活動できる体制づくりを進めるべき。メディアやSNSを使い、地域共生社会の活動を親しみやすい形で積極的に市民に知らせるべき。《岩本委員》
- 地域ニーズと施策のマッチングを検証することが大事。地域ニーズのマーケティングにより、問題の洗い出しとそれに取り組むべき組織・団体のすり合わせ、タスク規模、必要資金等を積み上げ、場合によっては組織等のリストラクチャリングによって、活動資金の効率的な運用が可能となるのでは。《田子委員》
- 将来いわき市の人口が半減しても市民が安全・安心に暮らし続けられる社会をつくることを考えると「ダイナミックな連携・取組み」が必須。小さく頑張ったところで、今後さらに労働人口が減少する社会に適応できるか疑問。市民だけでなく企業を巻き込んだダイナミックな仕組みを構築すべき。《西山委員》
- 地域福祉を学ぶこと。《篠原委員》

- 人間力(人材、人間関係)。どこから何を支援・協力してもらうにしても関わる人によりすべてが変わってしまう。《石原委員》
- 関係機関・団体との連携、情報収集、モデル事業の実施。《園部委員》
- 関わる人たちが自分事として関われるか。目的の共有、役割分担の確認が重要。《神永委員》
- 行政や地域企業とのネットワークづくり、活動資金。《ダナンジ委員》
- 活動支援(財源・活動拠点)、市民への広報、人材確保等《荒川委員》

6 地域づくりに役立つアイデア(ポイント)

- 有償ボランティアの活性化
- 情報発信・広報
- 世代・立場を超えてつながるオンラインとリアルの間
- 高齢者が多い地区でのICTスキル向上のアプローチ
- 専門職アウトリーチ増(おでかけ〇〇等)
- 福祉のワンストップ窓口
- 子育て世代や若者の参加できる仕組みをつくる(世代を超えたつながり)
- アウトリーチ型コミュニティ食堂
- シェアハウス、外国人が通えるプレスクール
- AIを活用した地域課題の見える化等
- 企業等による活動推進・支援
- 高齢者(老人クラブ、シルバー人材センター)の活用

- 関心があるけど迷っている方の背中を押す有償ボランティアをもっと広げられないか。
《長谷川委員》
- 「地域の想いを見える化し、発信する場」をつくること。「誰がどんな想いで活動しているのか」を伝える発信が増えることで、共感の輪が広がり、参加へのハードルも下がる。世代や立場を超えてつながるゆるやかな交流の場を、オンラインとリアルの両面で設けることも有効。地域課題を解決する活動(ごみ拾い・防災活動・エコ活動などのポイント制度)を「ゲーム化」するプロジェクトのように、地域貢献を楽しみながら進める仕組みを作ることが有効。《小嶋委員》
- 地域共生社会推進会議の強みを活かし、更なる連携強化を目指す《須藤委員》
- 高齢者が多い地区でのICTスキル向上のアプローチ、専門職アウトリーチ増(おでかけ〇〇等)、プロボノへの参画《藤舘委員》
- 岡山市や松戸市の「福祉まるごと相談窓口」のようなワンストップ窓口をつくること。名張市の「まちの保健室」のように子育て世代や若者の参加できる仕組みをつくり、世代を超えたつながりを生むべき。《岩本委員》

- アウトリーチ型コミュニティ食堂。キッチンカーを活用し、体が不自由で移動が困難な方にも対応できればいいと思う。《田子委員》
- 若者の参加(将来を見据えて)、調整区域の廃止(人口増加のため)《篠原委員》
- AIを活用した地域課題の見える化及び事例の紹介《園部委員》
- シェアハウス《神永委員》
- 人材の確保、後継者育成等。《古川委員》
- 外国人が通えるプレスクール(外国人の子どもや学校の負担が減る)。《ダナンジ委員》
- 企業等による活動推進・支援、高齢者(老人クラブ、シルバー人材センター)の活用、ボランティアポイントの拡大等。《荒川委員》